

本丸によみがえる...

久保田城表門

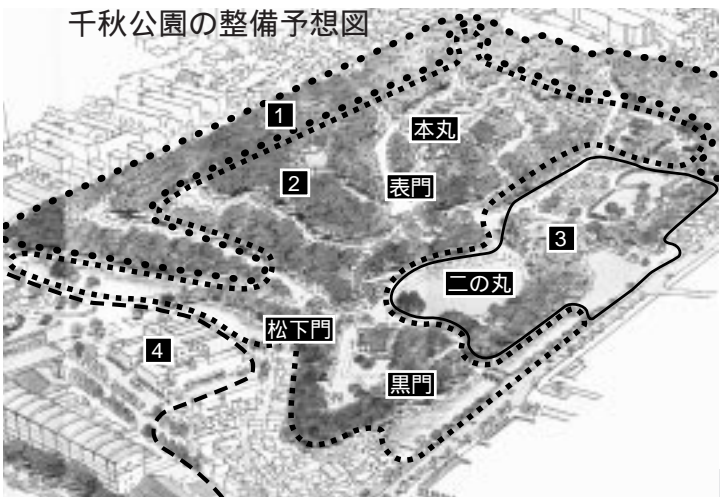


久保田城表門の完成予想図

市では、平成九年二月に「千秋公園再整備基本計画」を策定し、「水と緑と歴史の資質を活かした市民による公園づくり」をテーマに、千秋公園の再整備をすすめています。
久保田城築城から四百年の歴史と、公園として市民に親しまれてきた百年の歴史を継承しつつ、将来にわたって豊かな自然環境を保全し、時代の要請にこたえながら、より魅力的な公園づくりをめざすものです。
表門の建築もこの計画のひとつ。そして、このほど古い文献や絵図、表門跡地の発掘調査などをもとに、建築のための実施設計をまとめました。
建築する表門は、高さ十二・二メートル、横十・九メートル、奥行き五・四メートルの二階建ての櫓門。正面には、門扉を従えた太い鏡柱と脇柱が二本づつ、裏には控柱が一本。現存する礎石に据えたこの六本の柱で、三十六畳ほどの広さのある二階部分を支えます。

- 1 自然ゾーン 豊かな緑と生態系を保全し、散策・観察など自然とのふれあいの空間にします。
- 2 歴史ゾーン 久保田城の歴史的要素をもとに、歴史の持つ落ち着きを演出します。
- 3 市民交流ゾーン 園路や広場を整備して、ツツジの名所、花鳥風月の庭として整備します。
- 4 文化ゾーン 公園と市街地との魅力ある橋渡しの空間をつくります。

千秋公園の整備予想図



二階部分の壁は、白い漆喰に柱が映える真壁作り。瓦葺きの屋根も威かさを演出します。さらに、門の左右には土塁にそって板塀をめぐらします。建築費用は約三億円で、今年十月の着工をめざします。
シンプルな中にも力強さを感じさせる表門。完成すると、歴史の持つ落ち着きや重厚さを漂わせる建造物が本丸の入口に登場することになります。
再整備基本計画では、公園の本丸エリア、松下坂から長坂へ続く登城部分、黒門があったとされる東側部分を「歴史ゾーン」と位置づけています。このゾーンでは表門のほか、松下門や黒門の建築、佐竹史料館の移転なども予定しています。

本丸御殿へ続く正門

千秋公園は、佐竹氏久保田城の風情を色濃く残す城

址公園です。佐竹氏は、慶長七年（一六〇二）、常陸から秋田に国替されて以来、この地に城を構えて二百七十年間、秋田を治めました。
御殿のあった本丸は、多門長屋と板塀に囲まれていて、表門・裏門・帯曲輪門・埋門と呼ばれる四つの城門が設けられていました。表門は、二の丸広場から長坂の石段を登り切った本丸の入口にありました。一ノ御門とも呼ばれ、玄関口として、警備の上からも重要な役割を担っていたようです。また、表門前に現存する御頭御番所は、表門の警備や消防を担当したと考えられています。
表門は幾度かの火災に遭い、焼失・再建を繰り返し、現在はその具体的な形を見ることができません。裏門の一部だけが、旭北の鱗勝院に移築され、貴重な文化遺産として残っています。

こんな意見が寄せられています

千秋公園の再整備は、市民のみならずが計画・管理・運営に積極的に参加できる事業をめざしています。

自然ゾーンの整備についても昨年十一月からワークショップを開き、市民のみなさんの意見をお聴きしています。公園の西側は、草花や野鳥などありのままの自然が残っている場所です。これまで寄せられた意見や提案をご紹介します。

自然ゾーンについて

公園の歴史を踏まえ、今の自然を十分活かしてほしい 季節ごとに楽しめる草木を植えてほしい 自然観察・休憩場の空間を充実させる

松下亭前自然ゾーン入口

案内板やサインが不足 園路幅に変化がほしい モミジなど紅葉する木を植えてほしい

あやめ茶屋周辺

ショウブやアヤメを中心に、一年を通して楽しめる草花を植えてほしい 休憩・観察施設をつくってほしい あやめ茶屋はお茶や団子が外で食べられるようにしてほしい

ワークショップへどうぞ

市ではこれらの意見や提案をまとめ、整理しているところです。また、ボランティアによる公園の管理運営をすすめていきたいとも考えています。

次回のワークショップは、2月27日(土)午後1時30分から、中央図書館明徳館で開きます。テーマは「自然ゾーンの管理運営ほか」。関心のあるかたは、ご参加ください。

申し込み 公園建設課 ☎8662445

自然ゾーン (公園西側緑地)